

スキマタイムズ

もっとお互いを理解するための場や時間を

日本自立生活センター自立支援事業所 2020年8月26日発行 第113号

＊ 居場所づくり勉強会 第62弾 ＊

介助の現場で互いが使う言葉について 改めて確認しましょう

毎日の暮らしの中で何気なく使っている、「介助」・「介護」、「介助者」、「ヘルパー」などの言葉について、当事者や介助者みなさんで考えてみたいと思います。

JCILでは、自分たちの介助は自分たちのもので、権利としてあるものだと考えられてきており、そのため、当事者主体での「介助」「介助者」という言葉にこだわってきた時代がありました。しかし、年月がたつにつれ、また障害の幅も広がる中で「当事者主体」や「介助」という言葉にそれほど重きを置けないようになってきていることもあります。

また、何気なく使っている「介助」と「介護」という言葉は、それぞれの個人で持つイメージに違いがあり、そのイメージのズレが、介助の現場において「混乱」へと繋がっていることがあるようにも思いました。

そこで、改めてそれらの言葉の持つイメージや意味合いを考えながら、自分たちの現場に合う形を考えていきたらと思います。(担当：小泉)

＊ コロナ感染症予防のため換気を良くし、人数が多い場合はZOOMで相談室とさせていただきます。 ＊

日時 2020年9月11日(金)
14:00-16:00

場所 JCIL 本体事務所・相談室

こころとからだをすっきり！ ヨガタイム

ヨガで自分の身体と向き合ってみませんか？ヨガの目的はきれいなポーズをとることではありません。その日の身体がどんなふう動くか動かないか、意識を自分に向ける時間です。呼吸が深くなり、肩こり、腰痛、疲労感もやわらぎます。もちろん腰痛予防にもいいですよ！ ぜひ参加してみてください♪ 講師は石田久美さんです。



日時：9月15日(火)

17:00-18:15 (OPEN 16:45)

場所：油小路事務所2F

持ち物：動きやすい服装・タオル・飲み物

参加費：無料

☆☆☆ 密にならないよう、換気をこまめにし開催します。☆☆☆

※ このヨガクラスは、JCIL自立支援事業所の利用者と家族・介助者を対象にしています。

日本自立生活センター自立支援事業所 編集担当：岡山・春木

TEL: 075-682-7950 E-mail: jcil-kyoto@jcil.jp URL: <http://www.jcil.jp/zigyosho/index.html>

職員紹介 31

職員自己紹介

① 佐々木 真紀(ささき まき)

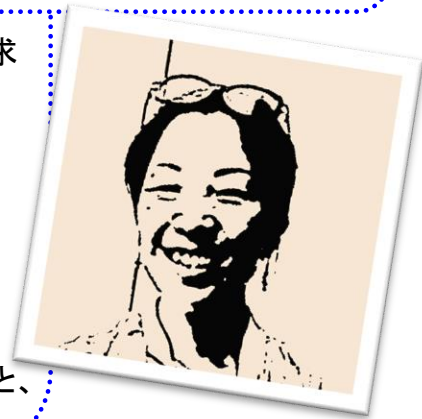
② 2017年の秋頃から

③ 2016年の相模原障害者施設での事件の後、日比谷野外大音楽堂で開催されている障害者権利条約の「骨格提言」の完全実現を求める大フォーラムに参加し、地域社会のかかわりの中で暮らしたいという当事者の思いに触れたことがきっかけです。各地に自立生活センターがあることを知り、問い合わせました。

④ 地域で暮らす障害者の生活の一部に携わっています。(移動、入浴、家事など)

⑤ A: 医療や福祉に関わりながらも気づかず見てこなかった視点など、これまで JCIL でみなさんに教えていただいたこと。

B: 働くこと、効率よく稼ぐことに重点を置く社会から、生きること、分かち合いに重点を置く社会に転換していきたいです。



ALS 嘱託殺人 京都の難病患者ら会見



嘱託殺人事件を受け、記者会見する大藪光俊さん(右端)、岡山祐美さん(画面)、増田英明さん(左から2人目)＝5日午後2時43分、京都市上京区・府庁 撮影・増田和彦

筋萎縮性側索硬化症(ALS)の女性に対する嘱託殺人容疑で医師2人が逮捕された事件を受け、京都の難病当事者らが5日、京都市上京区の府庁で記者会見を開いた。障害や難病のある人たちの安楽死を容認するような意見がインターネット上などで散見されることに懸念を示し、「死にたいではなく、支え合って生きたいと思える環境をつくる必要がある」と訴えた。

筋萎縮性側索硬化症(ALS)の女性に対する嘱託殺人容疑で医師2人が逮捕された事件を受け、京都の難病当事者らが5日、京都市上京区の府庁で記者会見を開いた。障害や難病のある人たちの安楽死を容認するような意見がインターネット上などで散見されることに懸念を示し、「死にたいではなく、支え合って生きたいと思える環境をつくる必要がある」と訴えた。

支え合い訴え 安楽死容認論を危惧

難病患者や障害者ら5日、府庁で記者会見を開いた。ALS患者の大藪光俊さん(右端)、岡山祐美さん(画面)、増田英明さん(左から2人目)＝5日午後2時43分、京都市上京区・府庁 撮影・増田和彦

支え合い訴え 安楽死容認論を危惧

筋萎縮性側索硬化症(ALS)の女性に対する嘱託殺人容疑で医師2人が逮捕された事件を受け、京都の難病当事者らが5日、京都市上京区の府庁で記者会見を開いた。障害や難病のある人たちの安楽死を容認するような意見がインターネット上などで散見されることに懸念を示し、「死にたいではなく、支え合って生きたいと思える環境をつくる必要がある」と訴えた。

生きたいと思える社会に

※京都新聞掲載記事紹介※

記者会見全文と動画はこちら↓

<https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/341742>

筋萎縮性側索硬化症(ALS)の女性に対する嘱託殺人容疑で医師2人が逮捕された事件を受け、京都の難病当事者らが5日、京都市上京区の府庁で記者会見を開いた。障害や難病のある人たちの安楽死を容認するような意見がインターネット上などで散見されることに懸念を示し、「死にたいではなく、支え合って生きたいと思える環境をつくる必要がある」と訴えた。

(森大樹)

～略～脊髄性筋萎縮症を生まれつき抱える大藪光俊さんは「(難病が) 苦しいなら安楽死しても仕方がない、という風潮になることを危惧している」と打ち明けた。自身は24時間の在宅ケアを受けて暮らしており、「病が進んで体が動かなくなり、怖い時期もあった。でも障害のある仲間から『大丈夫だよ』と教えられ、生きたいと思いつけられた」と語った。ALS患者の増田英明さんは文字盤を使い、「私たちは生きることに一生懸命です。安楽死や尊厳死の前に、生きることを議論してください」と言葉をつないだ。神経筋疾患の難病、遠位型ミオパチー患者の岡山祐美さんはオンラインで報道機関に意見を寄せ、「生と死の間で揺れる当事者がいる。死にたい思いを高める報道ではなく、生きることを支えるメッセージを発信してほしい」と求めた。～略～

総合支援法が改正されるよ！？ えっ、ほんま？ Part179

自立生活満喫中のリツコさん
でもあんまり難しい話は苦手…



こんにちはー。久しぶりだね！

コロナで自粛していたからかな？

たしかに、社会全体の動きがとまっていたもんで、今日のお話のテーマはなんだろう？

ああ。京都市の女性の方のことだね。なんかとても複雑な気分。でも、あのお金もらってやった医師はひどいなあ。

うあ、ひどい。「枯らす」って「死なせる」ってことだよな。確信犯なのね。

うん。わたしも、なんか世間の反応が怖い。「安●死」(以下、「アン」と省略)を認める！なんていう声も聞こえてくるし。

ん？ 嘱託殺人？ 自殺ほう助？

そうか。「アン」と言っても、殺人か自殺なのね。

そうなんだ。「ラクに死にたい」みたいな言葉のイメージにごまかされてはいけくないのね。

障害者制度改革について
勉強中のタクオさん
小難しいこともやさしく(?) 解説



こんにちはー。ほんと、ひさしぶりだ。

それもあるかもしれないけど、大きな制度の動きがあまりなかった、ということもあるね。

今日はね、一か月ほど前に明らかになった、「ALS患者嘱託殺人事件」に関して、ちょっとお話ししようかな。

うん。あの医師たち、『扱いに困った高齢者を「枯らす」技術』なんていうひどい冊子も書いている人たちなんだ。

そうそう。扱いに困った人を死なせたいと日頃思っていたので、今回の事件に至ったということだと思う。共生ではなく、排除の思想のきわみ。ほんとに怖いよ。そして今回の報道に対する世間のコメントを見ていると、かなりの程度、「死なせたい」という人が多いんだな、という気がする。

安易に、「アン」の制度化を求める声が多すぎるよね。なんか、多くの人が、「アン」を美しいものであるかのようにイメージしているみたい。でも、刑罰的には「アン」はまず「嘱託殺人」か「自殺ほう助」なの。

そう。殺してほしいと要請を受けて殺すのが「嘱託殺人」。自殺に手を貸してほしいと言われて、手を貸すのが「自殺ほう助」。両方とも罪になる。「アン」は基本的にこのどちらか。

たとえばオランダでも、「アン」が合法化されているわけではない。医師による患者に対する「嘱託殺人」か「自殺ほう助」なのだけど、厳密な要件を満たしていたら処罰しませんよ、という免除規定が設けられているだけ。医師がそんなことには手を貸したくないと言ったら行われないので、患者の自己決定権で行えるものではないの。

うん。そしてもちろん、この「アン」によって、かつて多くの障害のある人たちも殺害された。ほんと、要注意だよ。

生存権

を求める 9.27 p.m. 14

京都デモ

集合 円山公園

ラジオ塔前

河原町御池(市役所前)まで

2020

主催 生存権を求める京都デモ 2020 実行委員会

tel:075-671-8484 fax:075-671-8418(JCIL 気付・担当小松)



けんぽう25じょうのせいぞんけん だれもがあたりまえに生きていいとあります。だから生活保護制度があります。でも国は生活保護費を引き下げました。高齢の人、病気の人、障害のある人、働ききれない人から、生きることを奪うのは、国でした。だから、新生存権裁判を闘っています。

せかいじゅうでひんこんやかくさにはんたいするひとたちがいます。東アジアでギリシャで、スペインで、南米で。日本では、新生存権裁判の原告が、貧困をつくるのはおかしい、と言っています。

くるしいせかいをつくったのは1%のひとたち。99%のわたしたちが世界を変えましょう。世界を豊かにするために行動する、新生存権裁判の原告たちと一緒に、京都の街を歩きましょう。

せいかつほごはみんなのものです。

<https://www.facebook.com/events/609243733030410>

優しさ？思いやり？ 人権ってなんやろ？

コロナ禍で起こった生きづらさ…。皆が自由の制限や息詰まりを経験しています。さらに、障害者や介助職の感染リスク、その中で自由や人権のバランスでモヤモヤ感…。コロナ禍の暮らしを考えていくには「人権意識」が欠かせないのではないのでしょうか。皆で「権利・人権」についてアップデートしませんか。

☆ 日時：9月6日(日) 13:00~16:00

☆ 場所：オンライン Zoom 開催 UD トーク (情報保障) 有り

☆ 定員：50名

☆ 参加費：500円/学生無料

☆ 申込方法：Peatix サイト <http://ptix.at/iBMDiV>

☆ 申込締切：9月5日(土) 12:59 (コンビニ/ATM 払いの場合は申込締切 9/4(金) 23:59)

☆ 講演：「人権の視点から障害を考える ~さよなら！個人モデル~」…松波めぐみ

「あなたが“私” だったら ~健常者と障害者の生~」…岡山祐美

☆ 主催：オールフリーの会 (任意団体)

☆ 後援：小野市/加西市/加東市/多可町/西脇市/三木市/小野市社会福祉協議会

☆ 問合せ先： kitaharima.kazeiki@gmail.com